

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

新役職者のご紹介



**副総看護師長
玉城 誠**
たましろ まこと

みなさんこんにちは。令和2年9月1日付けで沖縄協同病院の副総看護師長に拝命されました玉城誠です。髪も影も薄くてご存じない方も多いと思いますがよろしくお願ひします。

さて、みなさんご承知の通り、沖縄協同病院は新型コロナウイルスの院内発生で大変な事態に陥っています。自宅待機しているスタッフが多数おり、人手不足は大変深刻な状況となっています。これらに対する対策を、それぞれの部署でできる事は何か、さまざまに案を出し合い、皆で協力しながら日々の業務を遂行しています。このような困難な状況時に、部署や職種の垣根を超えて助け合えることは、私達病院の底力と将来への可能性を感じています。今後も職員との団結を大事にしながら沖縄協同病院がさらに発展していくよう努力していきます。

最後に、患者さまにとっても、働く職員にとっても良い病院となるよう頑張っていきますのでよろしくお願ひ致します。



**入退院支援室長
又吉 隆也**
またよし たかや

8月1日付けで救急センターからこのたび新設された入退院支援室に異動になりました。入退院支援室と言っても何をするところ?の方が多いと思いますので、簡単に説明しますと、患者受診入院の搬送を看護師と救急救命士が行う。当院からの転院搬送も行う。

退院前訪問指導・退院後訪問指導・訪問看護同行指導を自宅や施設で行う等の事を外来・救急・地域連携課・医療事務課・病棟・認定看護師と連携して、病院完結型ではなく地域完結型を目指していき、患者さんの再入院リスクを少しでも軽減できたらと思っています。

また、入院前から連携して関わることで、効率的なバッド運用にもつながります。現在は新型コロナ禍の中、入退院支援というより感染対策チームの応援が主となっていますが、今後新型コロナが落ち着いて稼動し始めた際には御指導御鞭撻よろしくお願い致します。



**救急センター長
長嶺 さかえ**
ながみね

8月1日付けで1階外来より救急センターへ異動となりました、長嶺さかえです。

約2年前に救急センターで勤務しており、久しぶりに救急へ戻り今はまだ環境に慣れず右往左往している毎日です。

今後は「救急車を断らない」をモットーに1階外来で得た経験を糧に、地域住民に根差した救急を目指したいと思います。

よろしくお願ひします。



**6階病棟長
新垣 亮樹**
あらかき りょうき

このたび9月より、6階病棟長に任命されました新垣亮樹です。沖縄協同病院に入職し13年がたちました。その間、諸先輩方からのご指導を受けてながら、やりがいある看護に専念してきました。今では、後輩育成に関わることが多くなり「指導する」「育てる」ことの難しさ、その反面、後輩スタッフが成長していく過程をみることが出来る「うれしさ」を、日々感じながら毎日を過ごしています。師長として病棟運営をするにあたり、患者様、その御家族様から「6階病棟に入院して良かった。協同病院で治療できてよかった」と思っていただけるような病棟をスタッフ一丸となって目指していきたいと思います。これからよろしくお願ひします。



**1階外来師長
山城 優理子**
やましろ ゆりこ

8/1より1階外来の師長に就任しました、山城優理子です。

1階外来は、初診内科・脳外科・整形外科・心臓血管外科・神経内科があり、様々な疾患に対応する知識が必要とされる部署となっています。

そのためスタッフは時間さえあれば受付の隅っこで教科書や参考書を広げ、数人でミニ学習会をしている姿が見られます。

1階外来のスタッフはとても明るく、笑顔のすてきなスタッフばかりが集まっており、師長である私が一番癒されています。

これからも、安心して受診できる部署を目指してスタッフ一同力を合わせて頑張りたいと思います。これからも1階外来をよろしくお願ひします。

病院の活動状況 <2020年7月度>

- ・外来一日平均患者数：326人（前年同月比 -84人）
- ・入院一日平均患者数：284人（前年同月比 -28人）
- ・組合員利用分量（率）：59.7%（前年同月比 +6.2%）

心臓リハビリテーション

ひよこ塾

169

リハビリ室より



みなさん、「心臓リハビリテーション」とはどういうものかご存じでしょうか? 心臓病の患者様が体力向上や再発・再入院を防止することを目的に、運動療法に加えて冠危険因子の是正による多面的・包括的な疾病管理を受けるプログ

ラムとなっております。心臓リハビリテーションの効果としては、①心肺機能の向上②筋肉や骨を鍛え、体力低下を防ぐ③狭心症や心不全の症状緩和④不安の解消・精神的ストレス減少⑤コレステロール値や血糖値などの改善などが上げられます。外来心臓リハビリテーションでは、心電図モニターを装着し不整脈の有無を確認しながら、個々の体力に合わせて運動するため安心・安全に行えるのが特徴です。医師による回診、看護師による問診・バイタルサインの確認、理学療法士による個々の能力に合わせた運動処方、必要のある患者様には管理栄養士による栄養指導や薬剤師による薬剤指導なども行っています。また当院では、心臓リハビリテーション指導士の資格を有する医師や看護師、理学療法士も在籍しているので、より専門的な指導を受けて頂くことができます。

当院では、心臓病とうまく付き合いながら早期社会復帰・再発予防・不安解消、元気に日常生活週月土曜日に三階リハビリ室にて外来心臓リハビリテーションを実施しています。現在約八〇人の患者様が通院し、それぞれの目標に向かって日々頑張っています。動くと息切れや動悸がする、自分にあつた運動が知りたい、体力をつけたいとおっしゃる方はまずは主治医へ相談して下さい。見学も随時行っていますので、気軽に参加の方宜しくお申込みください。

また患者様・ご家族様向けのプログラムとして毎月BLS（心肺蘇生）や心不全についての講習会も行っています。どなたでも参加可能であります。ご不明な点がございましたら、気軽に心臓リハビリテーション担当までお問い合わせ下さい。

※沖縄県の新型コロナウイルス感染拡大により、八月現在外来心臓リハビリテーションは休止しています。感染状況確認しながら、今後再開予定となっています。



コロッセウム Rome

画・内科医 上原 和博



<ご意見・ご要望>

5階病棟の主治医の先生、看護師、リハビリ、食事、清掃のお世話にたずさわるスタッフの皆様に助けられて入院生活を乗り切れました。親切ていねいにお声かけ下さり、またいつ休まれているのかも知れないハードワークをこなし、患者一人一人に接している様を拝見し、頭が下がる思いです。

皆様もお体に気をつけてこれからも地域医療のためにご尽力いただけるようお願いいたします。
ありがとうございました。

旧盆（ウークイ） 外来休診のお知らせ

9月2日(水)は、旧盆の為、一般外来は朝から全て休診となり通常診療は行いませんので、ご了承をお願いします。



さて、再び全世界でコロナ感染が拡大している。「感染は自業自得か」という調査で「自業自得」と答えたのはアメリカ一%、イギリス一・五%、中国四・八%。日本はなんと十一・五%だったという。感染者に対しての差別や誹謗中傷が後を絶たない因だ。更に国境なき記者団に聞いた「報道の自由度」で日本は百八十国中六十六位だという。そういうえば民間の報道番組に政府が名指しで反論したことは記憶に新しい。安倍政権発足後（前年度は十一位）から年々後退しているのは世界の目が正しいということか。

最近は暗い情報ばかりだが、「コロナ収束後に行きたい国」で日本が一位というアンケート結果には希望が見える。

ハルサー
だより⁽³⁾

夏野菜の収穫終了

最後の夏野菜・果物を収穫した。殆ど果肉が厚いものばかり。動物に水分を与える代わりに種を撒いてもらうという戦略に改めて感心する。今年は路地にスイカ、ナーベラーラー等を植え、ハウス内にスイカ、ゴーヤー等を植えた。路地栽培で収穫できたのは例年の三割程度だ。原因は猛暑、虫の大発生、開花時の雨か？露地野菜にとつても今年は「特別な夏」になったようだ。対してハウス内の野菜は順調だった。ハウス栽培のメリットは水の管理、虫の遮断、冬の保温等で安定した収穫ができる。因みに私の地域では九割以上？がハウス栽培である。

私は主にマンゴーとトマトを栽培をしているが、収穫の最盛期にはミーウジー（見飽きる）してほとんど食べない。生産者なのにもつたないと自分でも思うが多量にあると食べる気がしないのである。それを利用して体に悪い食べ物が好物になると大量買いしてストック作戦をする。効果てき面で二日で手を出さなくなる。

ハルサー 金城 稲子